

第2回生徒指導職員研修会

日時 令和6年8月21日(水) 9:30~10:30

内容 生徒指導の構造(2軸3類4層構造)
及び いじめ防止対策 の関連性

場所 県立出雲崎高等学校 視聴覚室

本研修のねらい

生徒の生涯にわたる
Well-Beingの達成に
向けた教育の実現に向けて

その教育理論と
教育技術の一例を学びあう



1. はじめに ～本校のスクールポリシー～
2. 日本社会のこどもを取り巻く状況
3. 生徒指導の2軸3類4層構造と
1次的・2次的・3次的生徒指導を意識して教育しよう！
4. いじめ予防アンケートB-SAFEも活かした教育実践で
お互いのWell-Beingな生き方を目指そう！

本校の生徒を育てるゴール像 (GP)

■ Graduation Policy (育成を目指す資質・能力に関する方針)

本校ではこれから到来する変化の激しい時代においてもWell-beingな生き方を持続可能にする人材育成を目指して次の5つの力を育みます。

01

精神的な自立

自分に向き合って、自分で自分を成長させていける力を育みます。

02

社会的な自立

当事者意識を持ち、より良い社会づくりに取り組む力を育みます。

03

経済的な自立

将来の経済的基盤を確保できる職業人に必要な準備力を育みます。

04

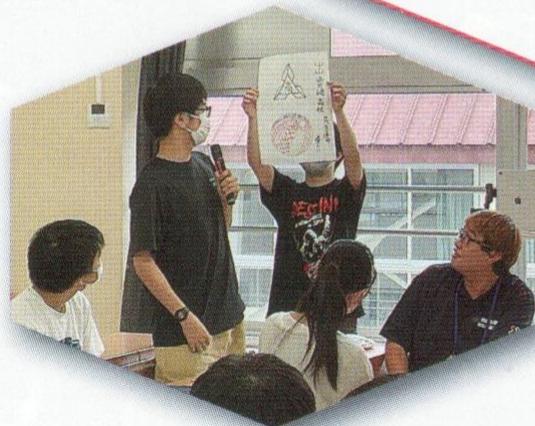
希望への輝き

夢と希望の達成に向けて、粘り強く取り組んでいく力を育みます。

05

ゆたかな情操

他者への思いやりと敬意を基本に、他者とかかわる力を育みます。



ブランチキャンパス (2年)





熊谷晋一郎氏



私が思う“GFPの示すイメージに近い人物” その1

学校法人 富澤学園
北海道ハイテクノロジー専門学校

株式会社植松電機

植松努氏

独占インタビュー

宇宙産業が求める人材とは



私が思う“GPの示すイメージに近い人物” その2

本校の生徒の育て方のイメージ像 (CP)

■ Curriculum Policy (教育課程の編成及び実施に関する方針)

本校では生徒の発達、成長を考慮し、下のStep1からStep6までを積み上げて、資質・能力を育みます。

Step6 自己決定する機会

生徒一人一人が、当事者意識を持って物事を捉え、自ら考え、判断し、自己決定していく経験を積むように教育活動を展開します。

Step5 教育資源有効活用

生徒一人一人が、自己を取り巻く教育資源を正しく理解し、それらの有効活用を考え、自らの目標を達成できるよう促します。

Step4 PDCAサイクル

生徒一人一人が、各々の活動に目的と目標を見出し、その達成に向け考え、実行し、振り返り、自己成長に繋げる指導を行います。

Step3 学びの価値の実感

生徒一人一人が、学びを楽しみ、学びが自分の可能性を広げていると実感し、好奇心を高め、主体的に取り組める授業を行います。

Step2 自己存在感の感受

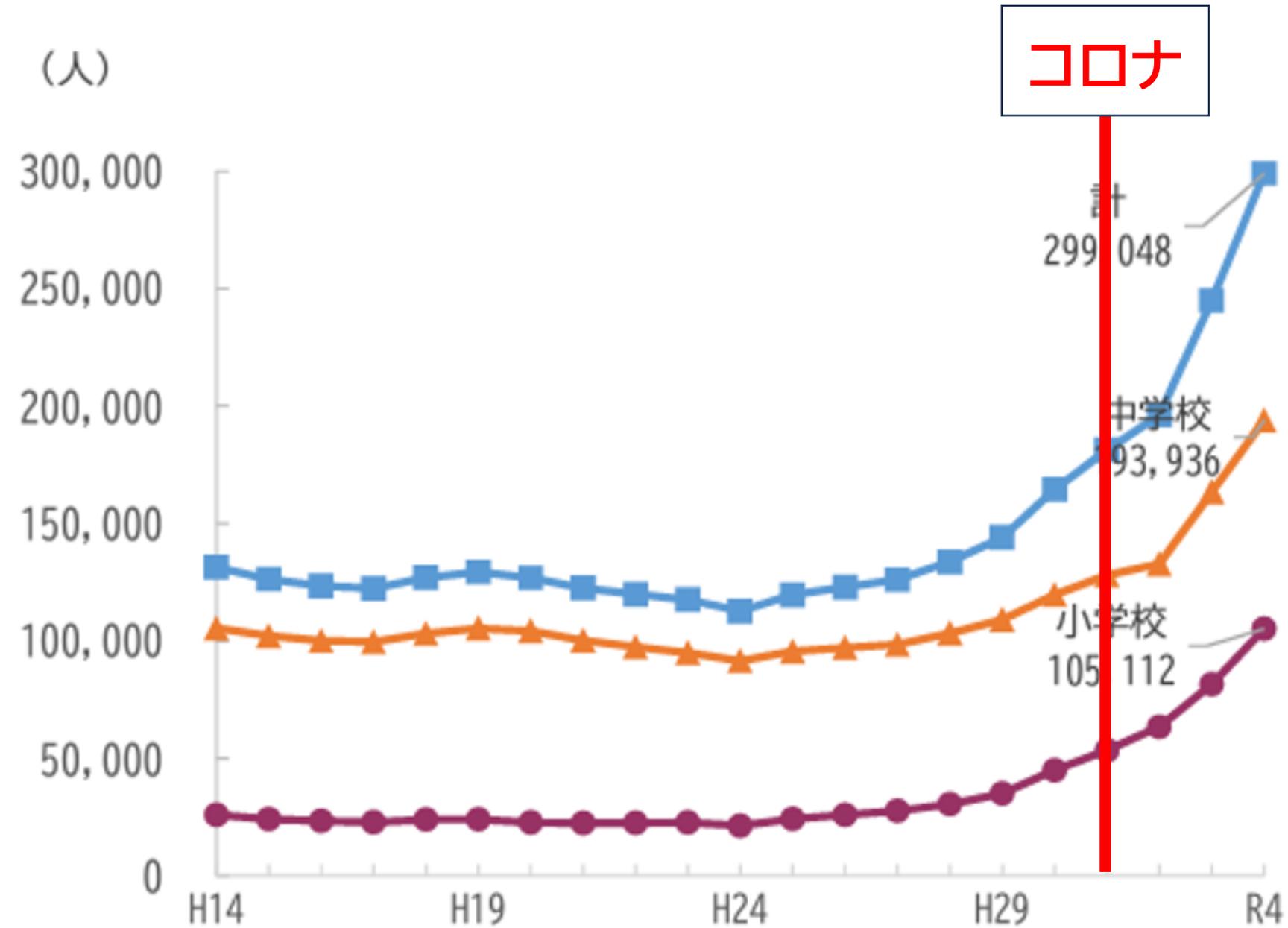
生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め、豊かな情緒的交流により自分の存在価値を実感するような教育活動を展開します。

Step1 安全・安心な空間

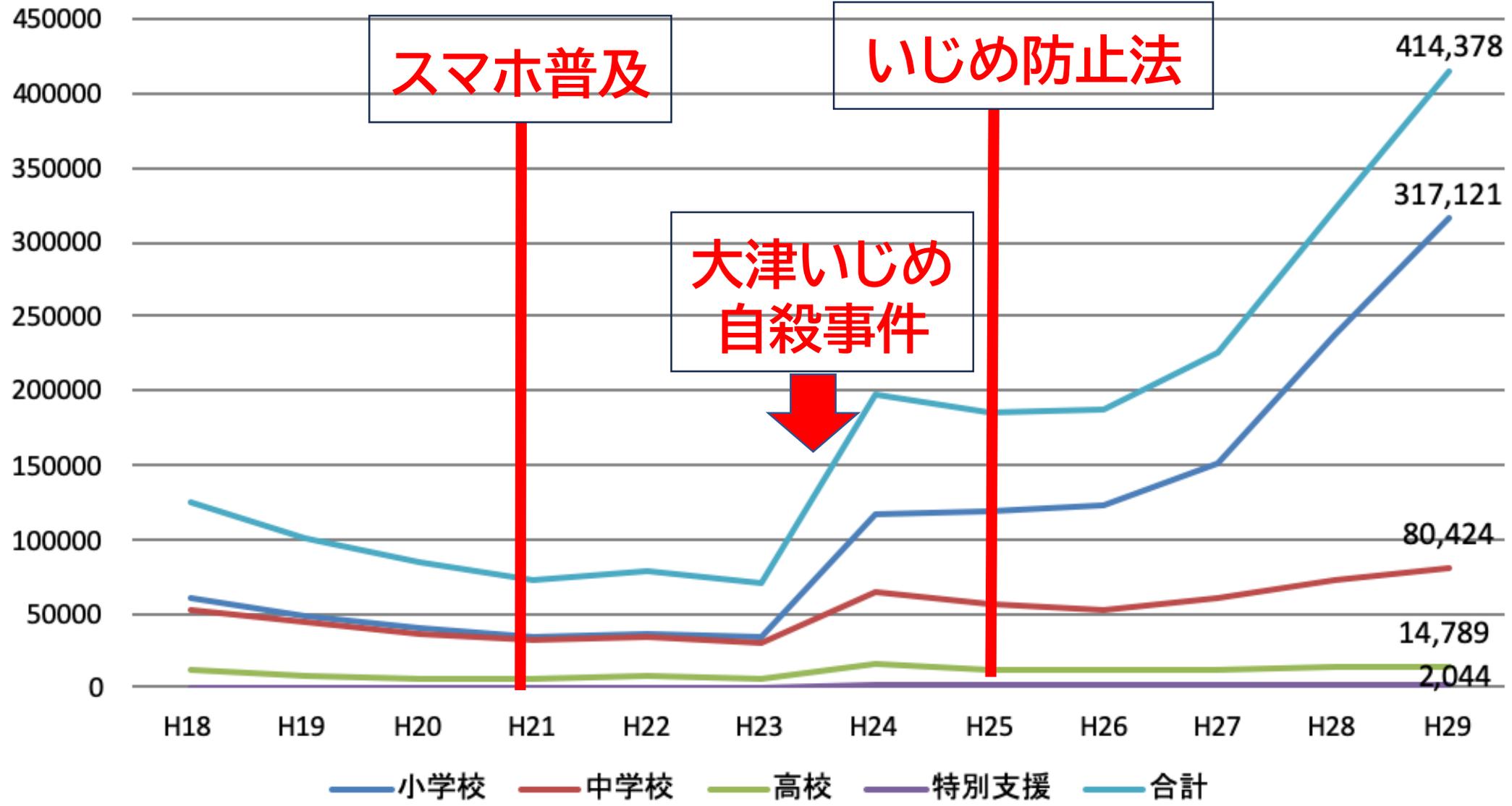
生徒一人一人が、自他を尊重し、お互いの多様な個性を認め合う関係を育み、安全・安心な空間で学習できるように取り組みます。

1. はじめに ～本校のスクールポリシー～
2. **日本社会のこどもを取り巻く状況**
3. 生徒指導の2軸3類4層構造と
1次的・2次的・3次的生徒指導を意識して教育しよう！
4. いじめ予防アンケートB-SAFEも活かした教育実践で
お互いのWell-Beingな生き方を目指そう！

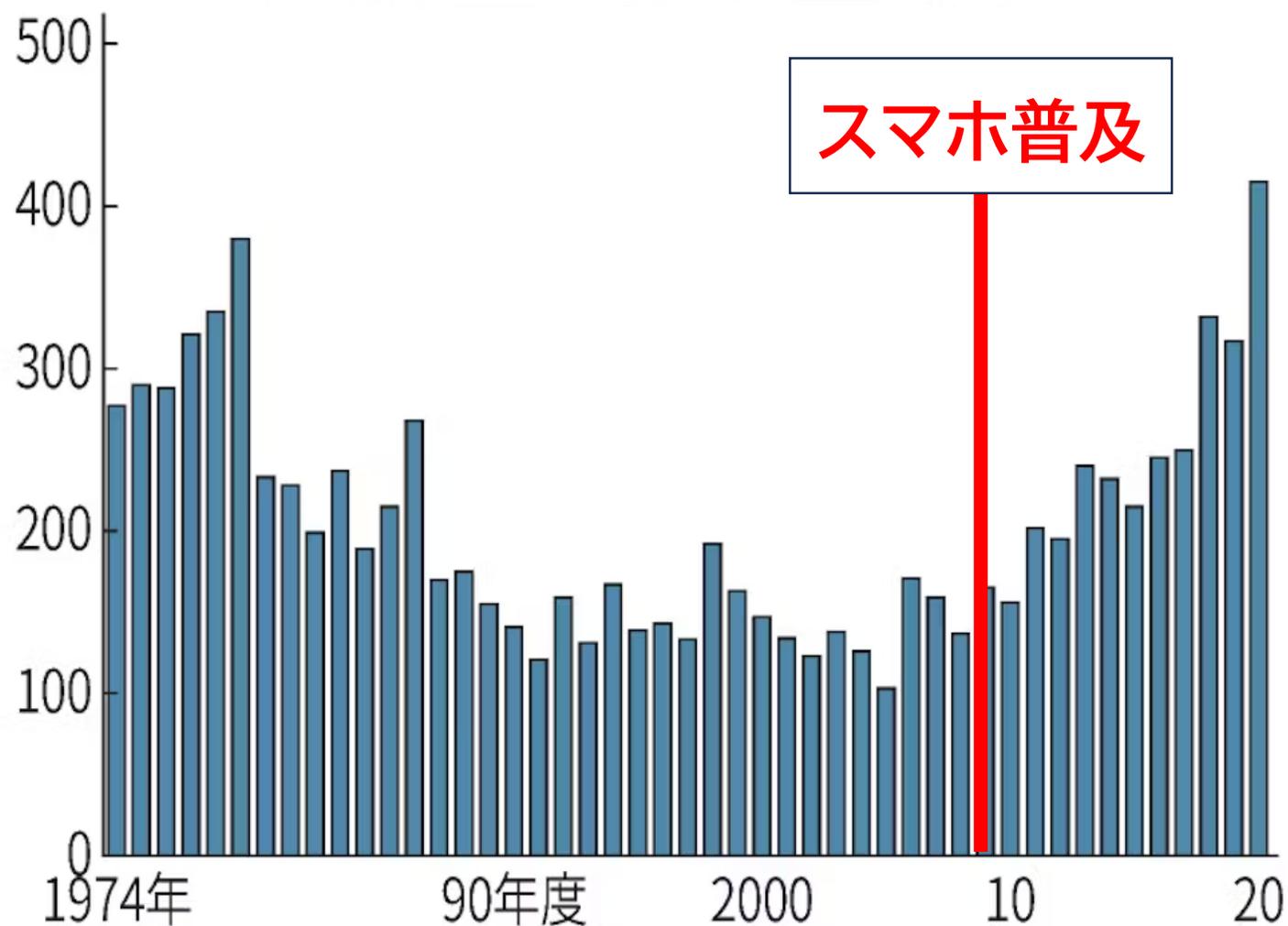
不登校児童生徒数の推移



いじめの認知件数



小中高生の自殺件数の推移

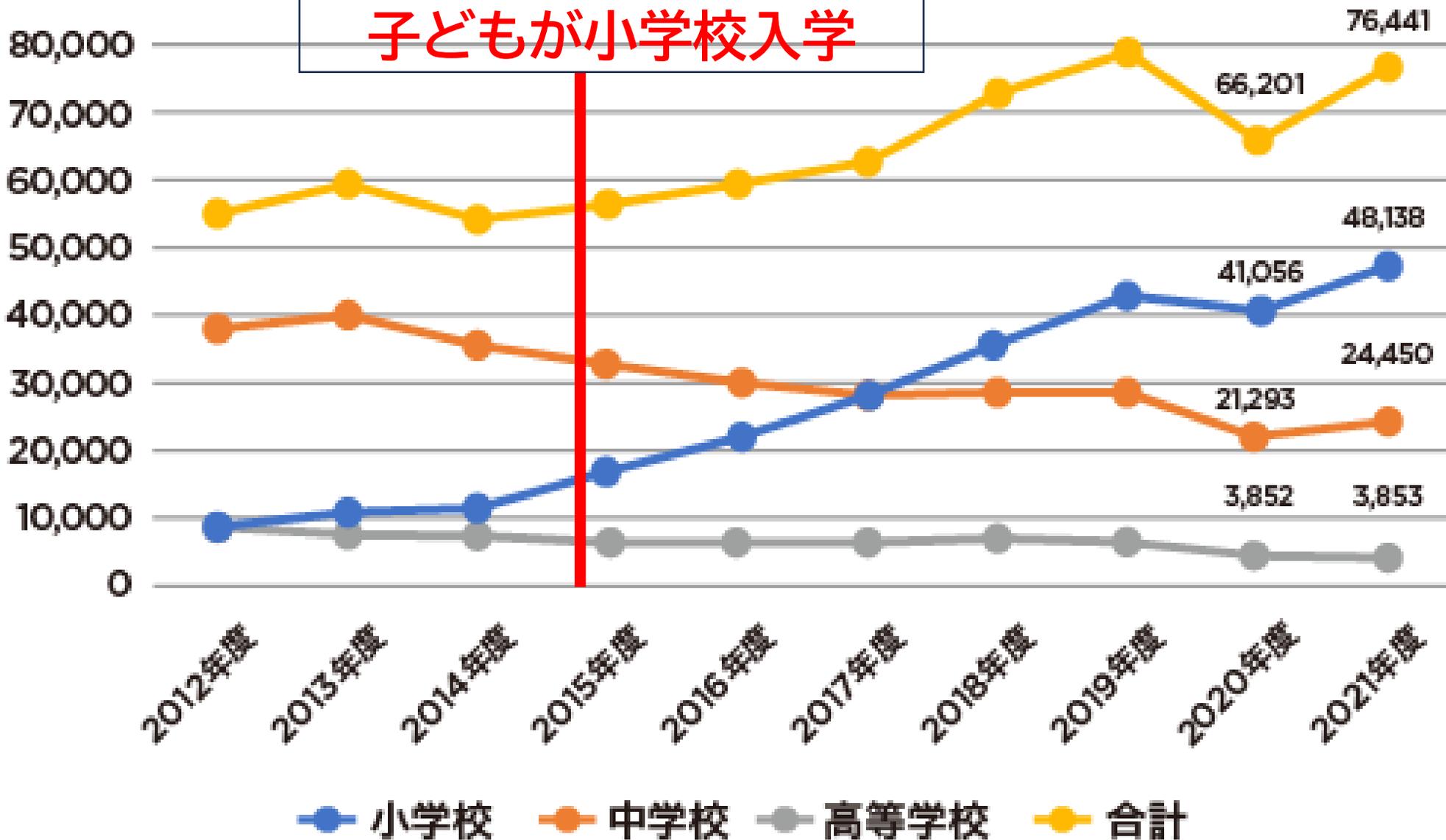


(注) 1974~87年は年間、88年以降は年度間
学校から報告のあった事案

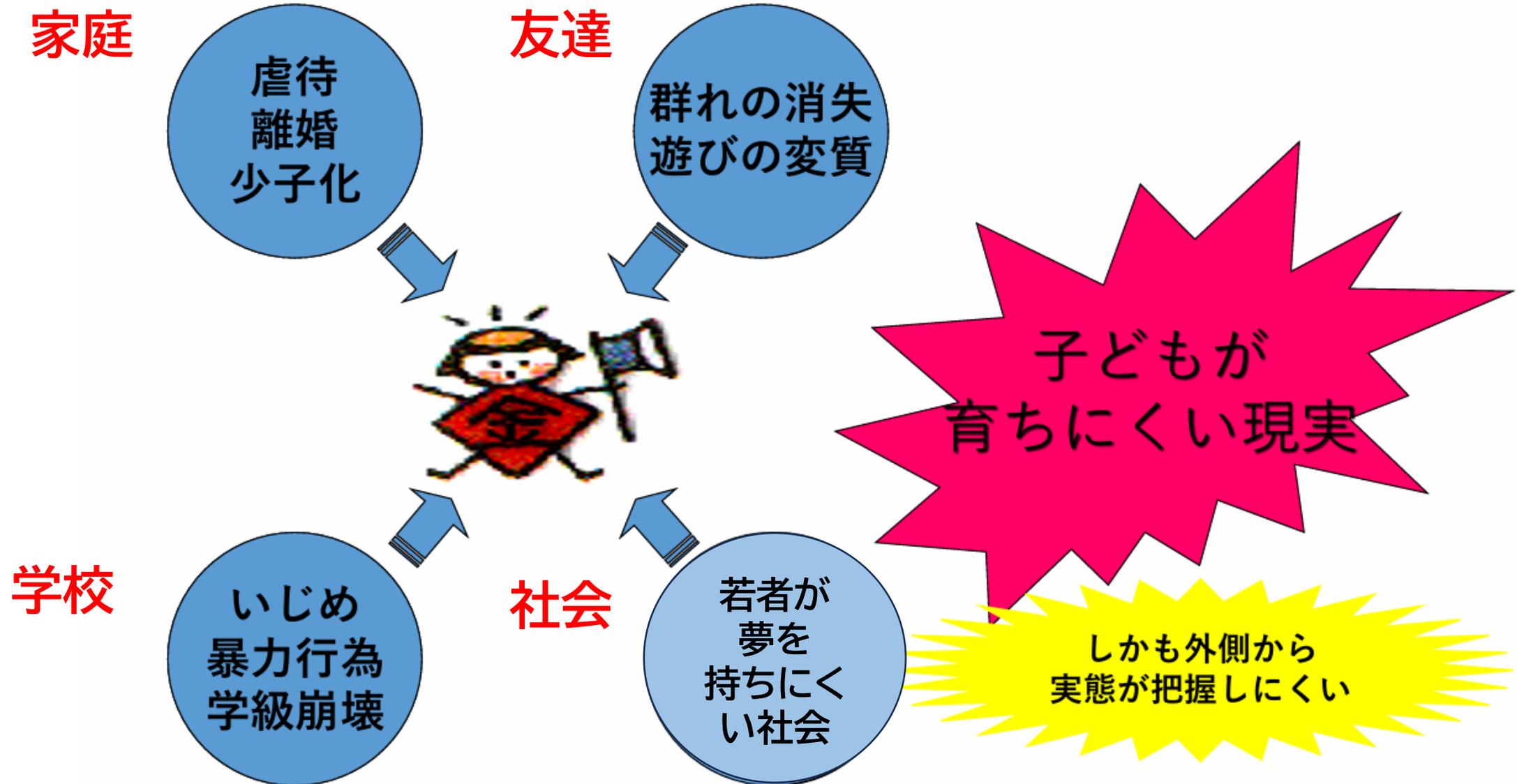
(出所) 文部科学省

表1: 暴力行為発生件数(件)

スマホ普及年に出生した
子どもが小学校入学



子どもを取り巻く環境の変化



1. はじめに ～本校のスクールポリシー～
2. 日本社会のこどもを取り巻く状況
3. 生徒指導の2軸3類4層構造と
1次的・2次的・3次的生徒指導を意識して教育しよう！
4. いじめ予防アンケートB-SAFEも活かした教育実践で
お互いのWell-Beingな生き方を目指そう！

ここに生徒を育てる理論と方法が書かれている！

生徒指導提要

**愚直に実践
する！**

令和4年12月

文部科学省



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

生徒指導提要は本校のスクールポリシーと完全に一致する！

生徒指導の目指すところ



生徒指導の理解は2軸3類4層構造の理解からはじまる！

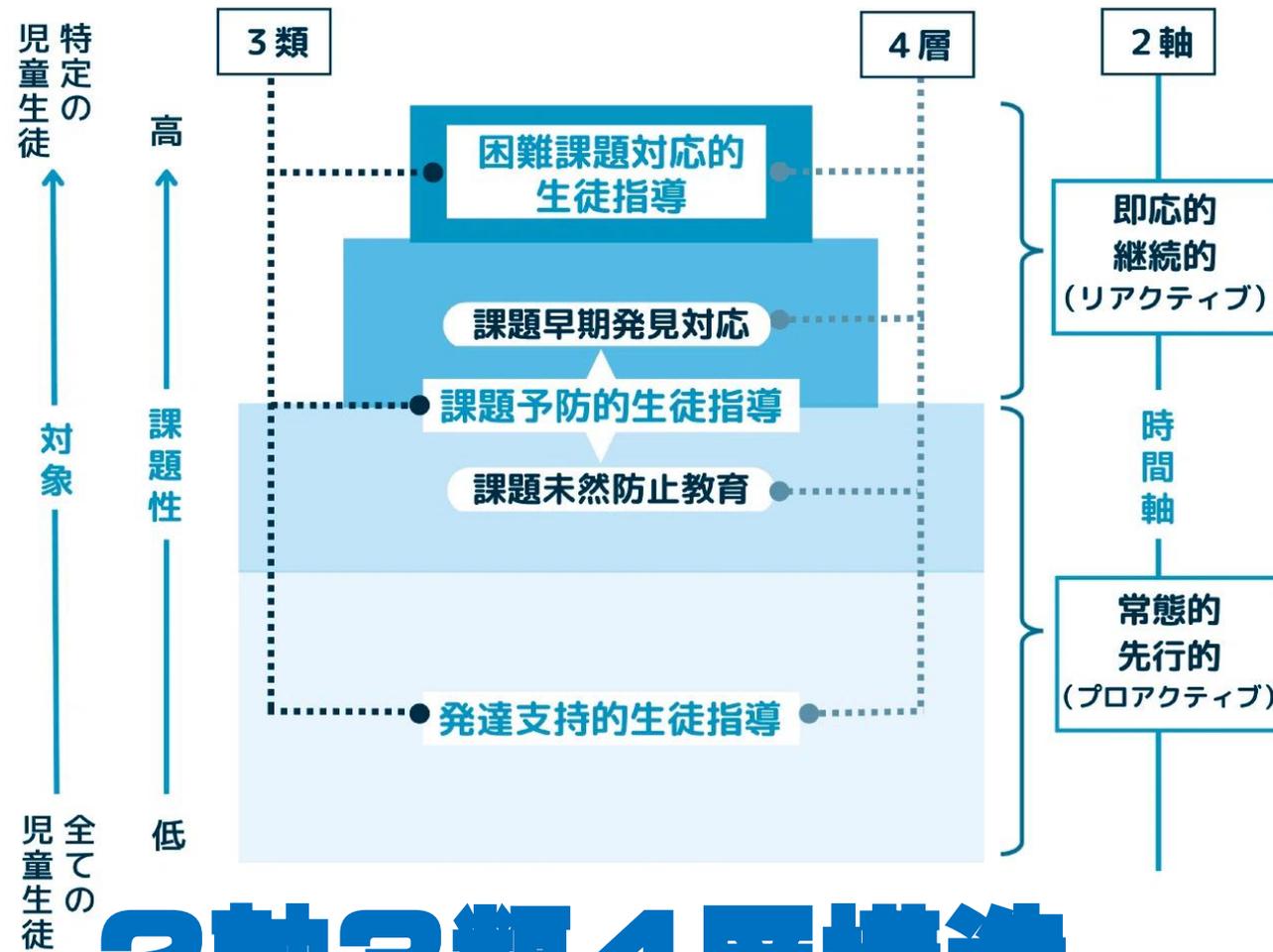


図 生徒指導の重層的支援構造

2軸3類4層構造の1層目は？

【 発達支持的生徒指導 】

- ・ 特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤
- ・ 教科指導、総合探究、特別活動等の授業を通じて、児童生徒の①自己理解力、②自己効力感、③コミュニケーション力、④他者理解力、⑤思いやり、⑥共感性、⑦人間関係形成力、⑧協働性、⑨目標達成力、⑩課題解決力などを含む社会的資質・能力の育成を図る
- ・ 日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切となる

2軸3類4層構造の2層目は？

【課題未然予防教育】

- ・ 全ての児童生徒を対象に、生徒指導の諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・系統的な教育プログラムの実施
- ・ 具体的には、**いじめ防止教育、SOS の出し方教育を含む自殺予防教育、薬物乱用防止教育、情報モラル教育、非行防止教室等**が該当
- ・ 生徒指導部を中心に、SC 等の専門家等の協力も得ながら、年間指導計画に位置付け、実践する

2軸3類4層構造の3層目は？

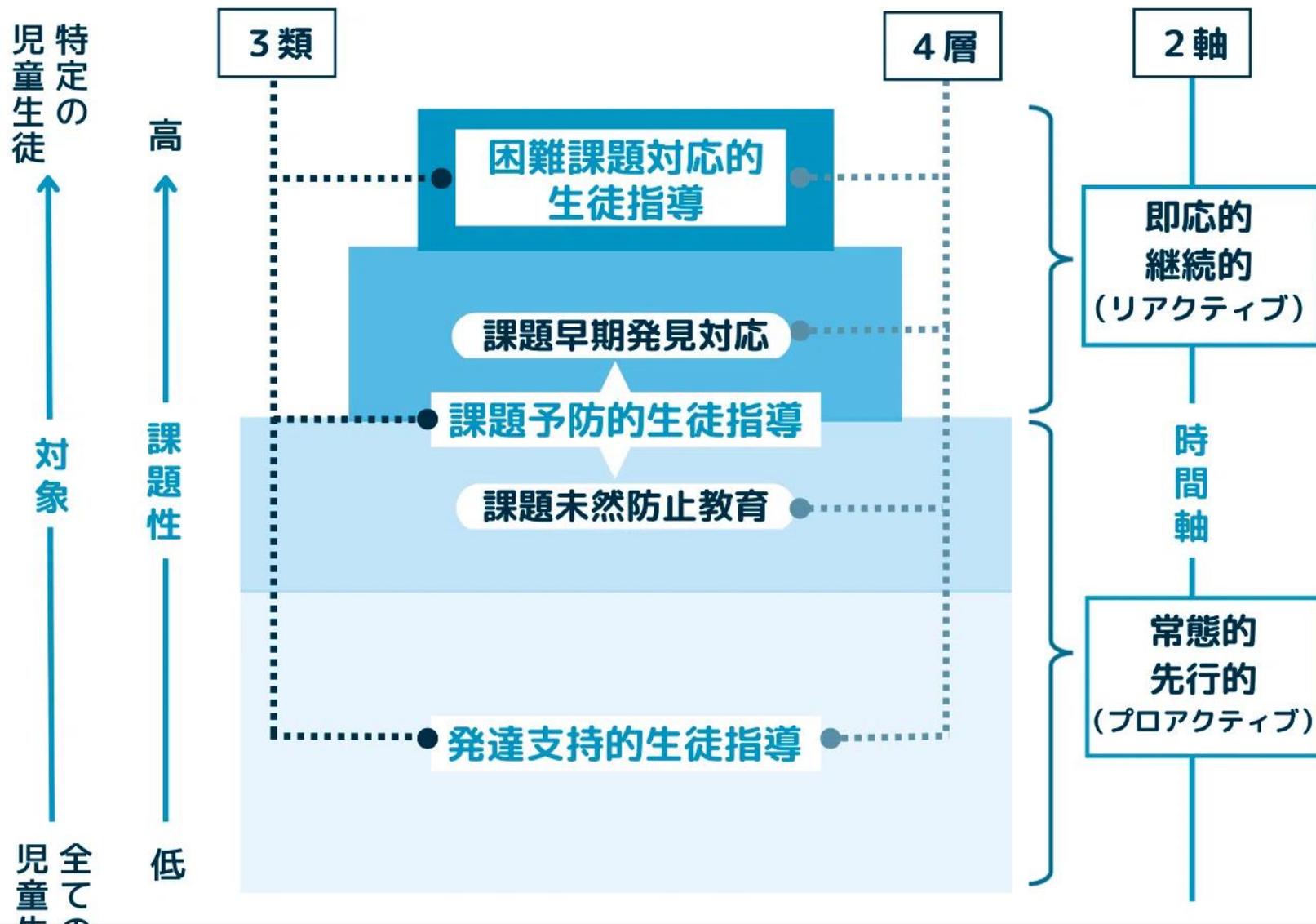
【課題早期発見対応】

- ・課題の予兆行動が見られたり、問題行動のリスクが高まったりするなどの気になる一部の児童生徒を対象にして、深刻な問題に発展しないように、初期の段階で諸課題を発見し、対応する
- ・早期発見の方法として、アンケートや常日頃の観察等あり、発見した場合は、教育相談や家庭訪問などで迅速に対応していく。その際、SCやSSWを交えたチーム支援会議等でアセスメントに基づき支援計画を作成し、対応することが望ましい。
- ・一方、児童生徒が課題を抱え始めているのを早期に感じ取ることができるのは、常日頃に一緒に学校生活を過ごしているクラスメートや友人であるため、周囲の仲間が適切に関わり、課題の深刻化を防ぐように支援に導くことも大切である。

2軸3類4層構造の4層目は？

【 困難課題対応的生徒指導 】

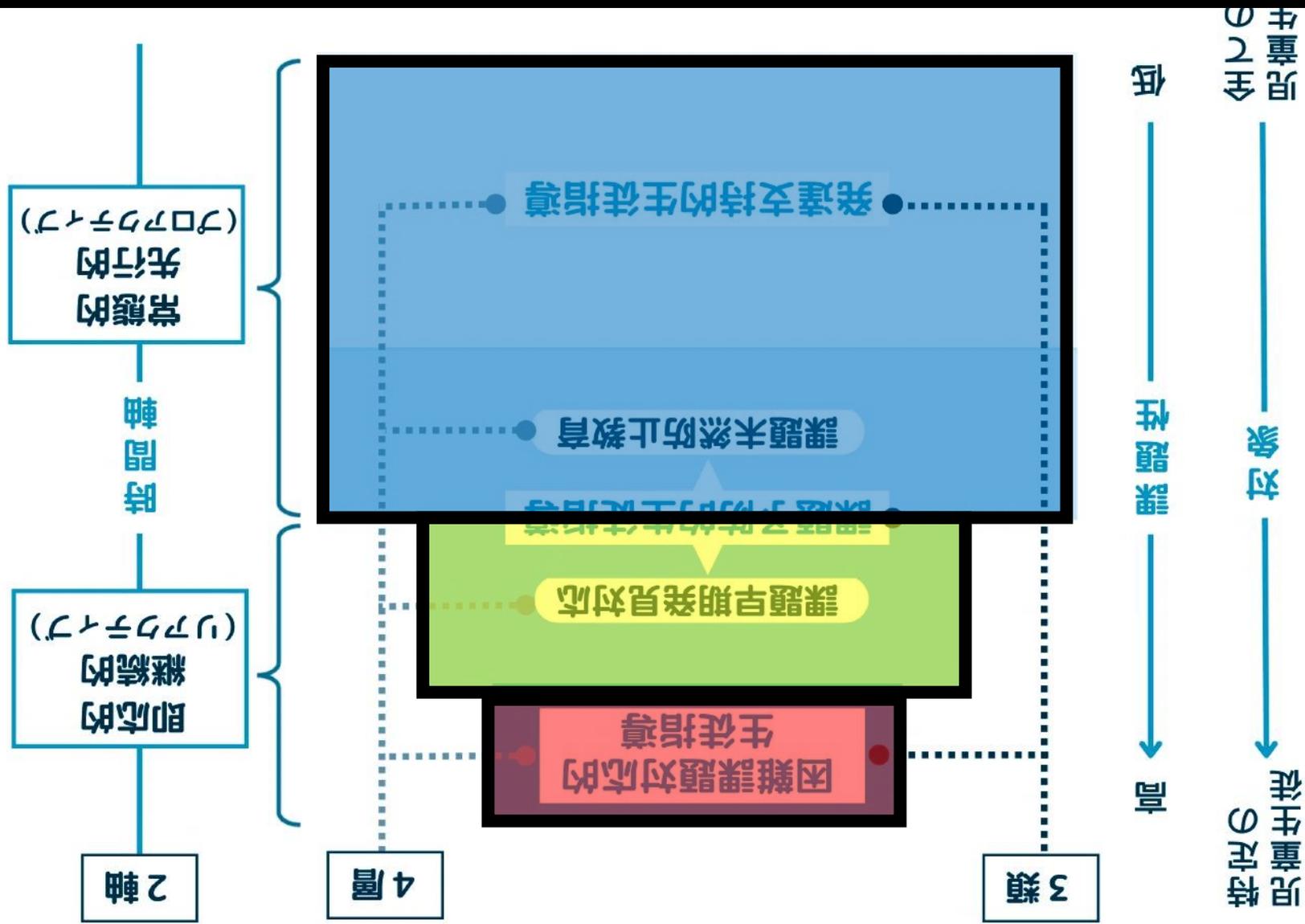
- ・ いじめ、不登校、少年非行、児童虐待など困難な課題を抱えている特定
の児童生徒を対象に、校内の教員、SC、SSW等だけでなく、児童相談所、
病院、警察等の専門機関と連携・協働して課題対応を行う
- ・ 児童生徒の背景には、児童生徒の個人の性格、発達障害、愛着障害等の
個人的要因の他、児童虐待・家庭内暴力・家庭内の葛藤・経済的困難など
の家庭的要因や、友人間での人間関係に関する要因など、様々な要因が複
雑に絡んでいることが多いため、課題の背景を十分にアセスメントし、的
確に理解した上で、適切に課題に対応する必要がある



提要に記載の図を上下、逆さまにして表示してみます！

図 生徒指導の重層的支援構造

逆さまにした図に、色をつけ3つに分類してみました！



これが生徒指導を3分類する「雨漏りモデル」です！



1次的生徒指導

自分のしんどさを自分自身で乗り切っていく力を育てる指導



2次的生徒指導

友だち同士で支え合い、仲間の思いやりや支援によって支えあって、乗り切る力を育てる指導

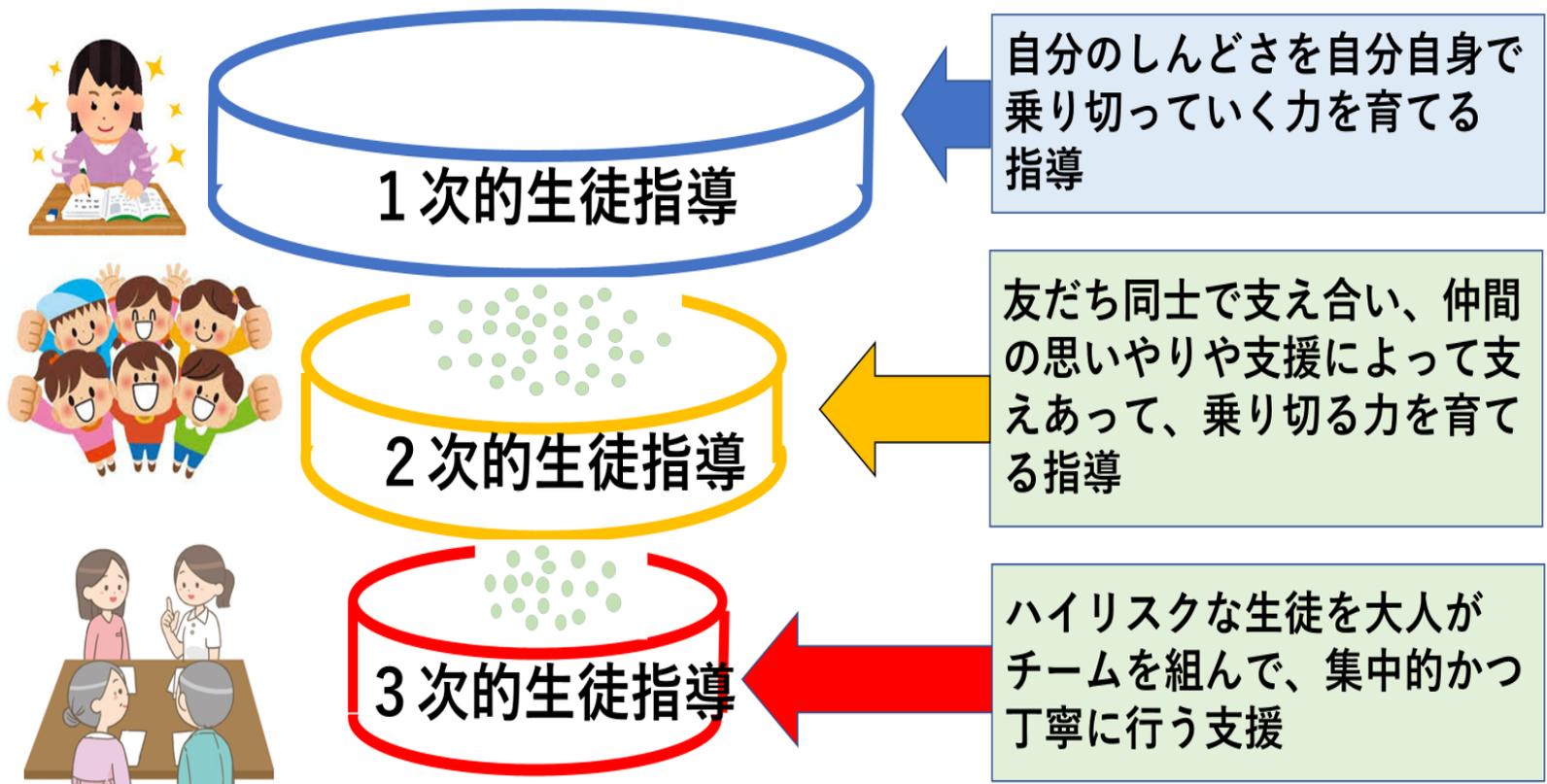


3次的生徒指導

ハイリスクな生徒を大人がチームを組んで、集中的かつ丁寧に行う支援

雨漏りモデルと、上下逆さにした図を関連付けて理解します！

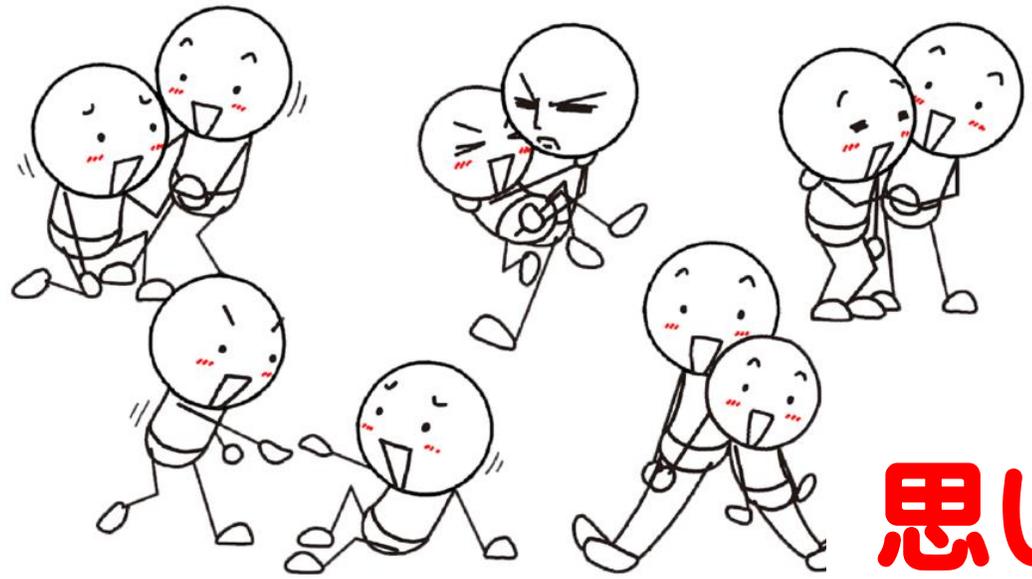
1 次的・2 次的・3 次的生徒指導



授業・総合探究・特活等

授業等で、特に**2次的生徒指導**を徹底的に鍛えます！

私は、誰一人として、決して見捨てない！



支援！

支え合い！

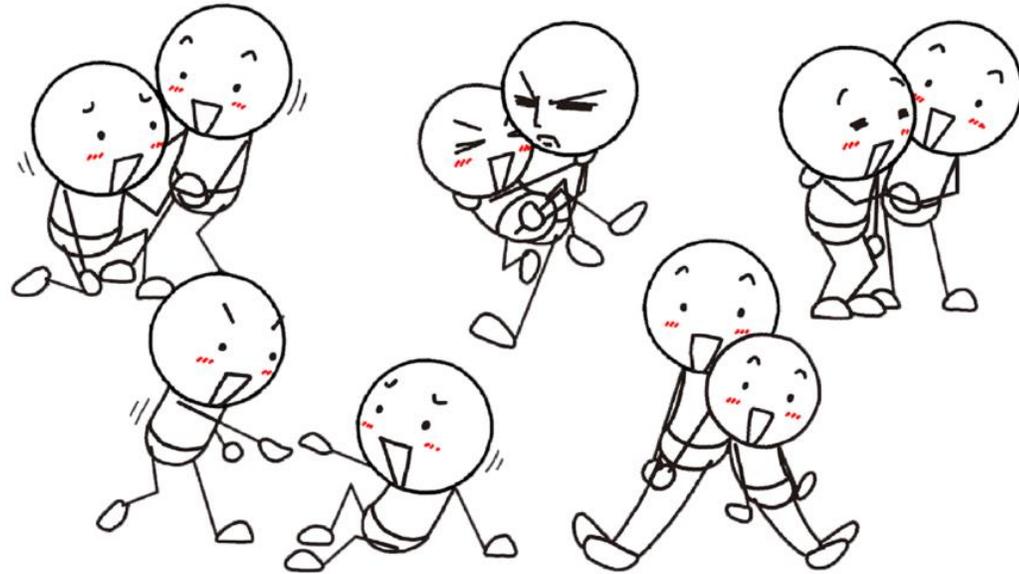
思いやり！

みんな仲間！ リスペクト！

1人称の「自分の損得」から“大切さ”を理解させます！



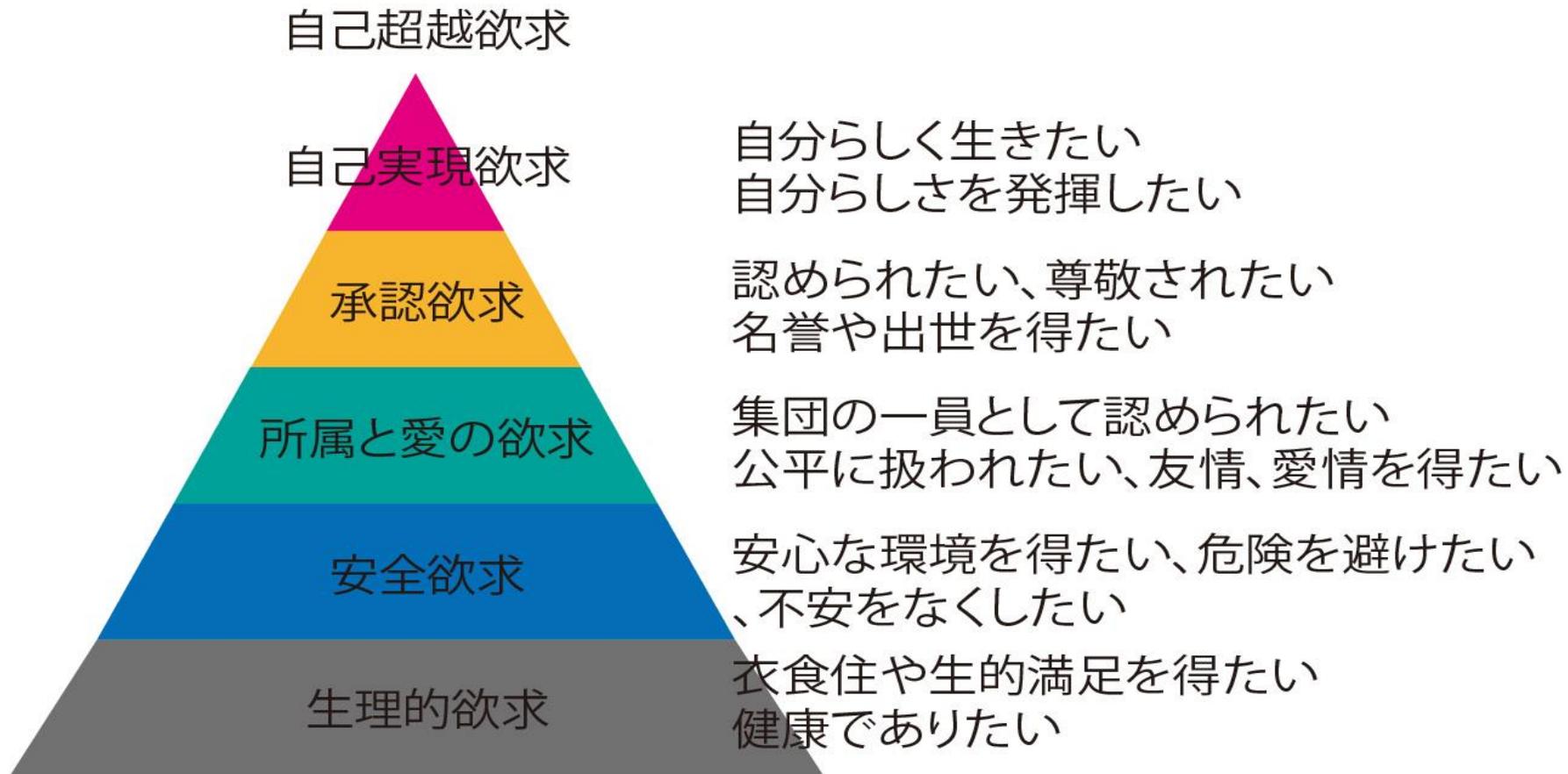
そうすれば



私も、みんなから大切にされる！

これは本校SPのベースにある**マズロー**とも**完全一致**します！

マズローの欲求5段階説



授業での1次的・2次的生徒指導の取組はCPに直結します！

■ Curriculum Policy (教育課程の編成及び実施に関する方針)

本校では生徒の発達、成長を考慮し、下のStep1からStep6までを積み上げて、資質・能力を育みます。

Step6 自己決定する機会

生徒一人一人が、当事者意識を持って物事を捉え、自ら考え、判断し、自己決定していく経験を積むように教育活動を展開します。

Step5 教育資源有効活用

生徒一人一人が、自己を取り巻く教育資源を正しく理解し、それらの有効活用を考え、自らの目標を達成できるよう促します。

Step4 PDCAサイクル

生徒一人一人が、各々の活動に目的と目標を見出し、その達成に向け考え、実行し、振り返り、自己成長に繋げる指導を行います。

Step3 学びの価値の実感

生徒一人一人が、学びを楽しみ、学びが自分の可能性を広げていると実感し、好奇心を高め、主体的に取り組める授業を行います。

Step2 自己存在感の感受

生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め、豊かな情緒的交流により自分の存在価値を実感するような教育活動を展開します。

Step1 安全・安心な空間

生徒一人一人が、自他を尊重し、お互いの多様な個性を認め合う関係を育み、安全・安心な空間で学習できるように取り組みます。

生徒指導の三機能	授業において主に意図すること
自己存在感を与える	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや言動に承認や称賛、励ましの声かけや、個に応じた支援があり、自分は授業で大切にされていると感じられる。 ○一人一人が学ぶ楽しさや達成感を味わえる。 ○自分の考えや感じ方をもって書いたり話したりしたことを、みんなの前に示す場がある。
共感的な人間関係を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ○他者の考えや感じ方を肯定的に受け止めることができる、共感を核にした人間関係を築いていく。 ○交流を通して、新しい気付きや考えが生まれ、他者と関わり合うことのよさを感じられる。 ○児童生徒同士だけでなく、教師も一人の人間としてふれあい、互いに理解し、尊重し合う。
自己決定の場を与え 自己の可能性の 開発を援助する	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え、判断し、実行したり表現したりする等、問題解決的なプロセスがある。 ○選択肢や多様な意見がある中で、他者の意見や主体性を尊重しながら、自己決定を図っていく。 ○他者との交流を通して気付けたことや、これからの学習について考えたこと等を、振り返る機会がある。

この後の活動や、今後の実践のヒントとして、ご活用ください

そうすると3次的生徒指導の対応も減り楽になります！

問題行動発生時の対応時間のイメージ（例）

①もし不登校が一人でたら

職員約2名 × 30分/日 × 30日 = 30時間 + 支援会議 等

②原因が「いじめ」と分かり、対応が生じたら

職員約8名 × 60分/回 × 10日 = 80時間 + 職員会議 等

③更に深刻な事態となると

重大事態として対応

調査や保護者等への説明 = 連日の遅い時間迄の勤務

既に**生徒指導提要の実践**は多くの学校で**成功**を収めています



生徒指導提要の実践マニュアル本

生徒のため“車輪の再発明”せず、成功事例を参考にしよう！

1. はじめに ～本校のスクールポリシー～
2. 日本社会のこどもを取り巻く状況
3. 生徒指導の2軸3類4層構造と
1次的・2次的・3次的生徒指導を意識して教育しよう！
4. いじめ予防アンケートB-SAFEも活かした教育実践で
お互いのWell-Beingな生き方を目指そう！

B-SAFEとは

B-SAFEは

「より良い学級のための能力と取り組み、友人や教師、
経験に関する質問紙」

(scale for **B**etter class on **S**kills, **A**ctions,
Friends/teachers and **E**xperiences. : ビーセイフ)

の略称です。

これは①いじめ対処、②いじめ予防の両方を支援するツール！

より良い学級のための尺度 (B-SAFE)

 いじめ対処も予防も支援する

より良い学級のための尺度 (B-SAFE) の強み

- ネットいじめも把握！（不要の場合は、12項目削減可能）
- 個別と学級の状況が一目でわかる！
- 同年代の子どもの数値と比較した偏差値を算出
→少人数や小規模校でも正確に状態が把握できる
- いじめがない学級でも予防すべき点の有無がわかる
- アンケート項目は最大55項目と少し多め
→「いじめの実態」「支援すべき点」「支援方法」がわかる



Check1

分類〔支援〕

私は

- ・友人サポート
- ・教師サポート

を受けている

と、感じている？

Check2

分類〔能力〕

私は

- ・いじめ処理能力
- ・価値観

を持っている
と、感じている？

Check3

分類 [加害頻度(回/直近週)]

私は

- 直接いじめ
- 間接いじめ
- ネットいじめ

をした

と、感じている？

Check4

分類 [被害頻度(回/直近週)]

私は

- 直接いじめ
- 間接いじめ
- ネットいじめ

をされた

と、感じている？

Check5

分類 [認知頻度(回/直近週)]

- 私は
- 直接いじめ
 - 間接いじめ
 - ネットいじめ

を見た

と、感じている？

Check6

分類〔 取組認知度 〕

学校には

- 協力・協調風土
- いじめ防止指導
- スキル教育

はある

と、感じている？

B-SAFEの出力イメージです！確認ポイントを紹介します！

B-SAFE出力画面イメージ

1 学級の状態 (能力や風土) がわかる



いじめの立場もわかる

例) 加害のみ、被害のみ、加害被害両方、どちらもなし、認知なしなど立場ごとの人数と能力や風土がどこに位置しているか一目でわかる

次の一手が見える

いじめを抑制すると認められた9つの厳選された取り組みにおいて、児童生徒の認知でどこが少ないかが一目で分かり、次に何を取り組んだらいいかのヒントが得られる

2 学級全体で注意すべき児童生徒が誰でもここが一覧でわかる

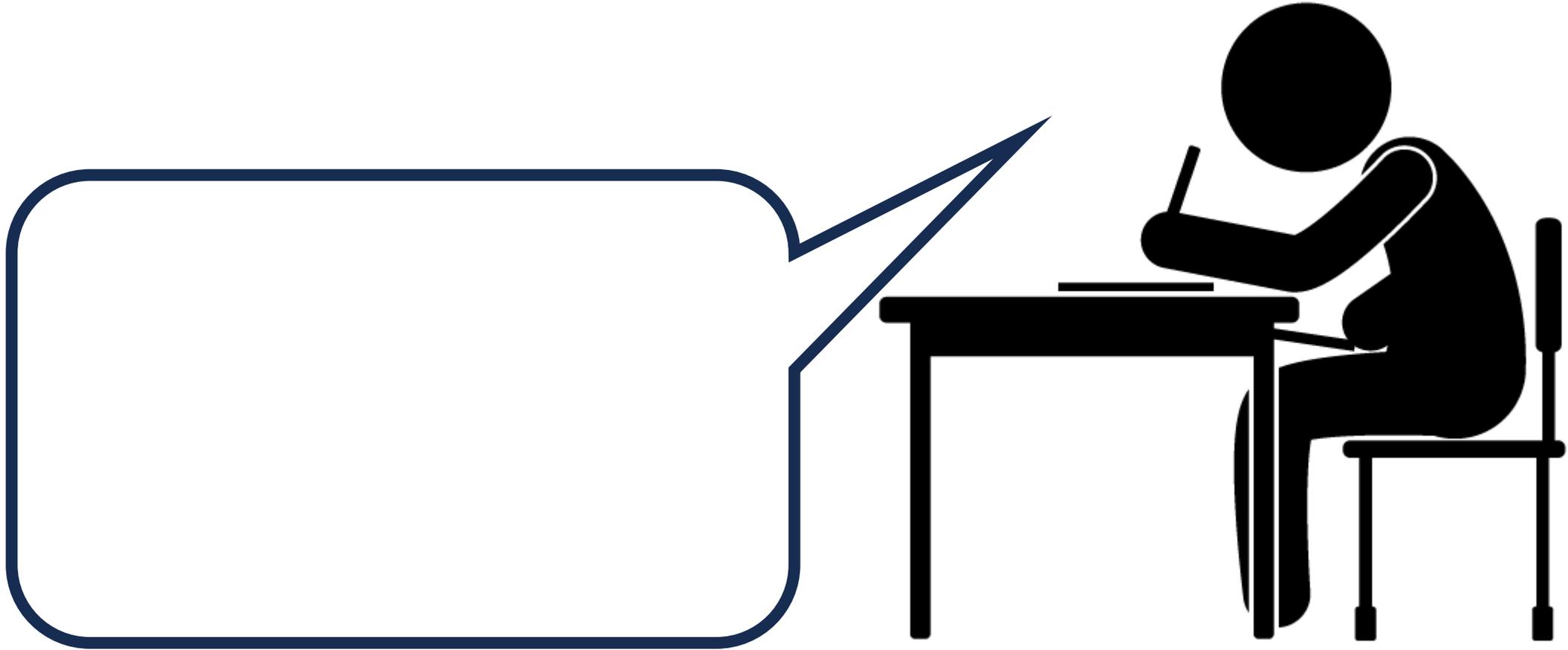
・能力偏差値・支援偏差値は40未満の部分は赤色、30未満は灰色で塗りつぶしています。教師の認識とズレがないか個人を確認してください。
 ・加害・被害頻度については、5回以上を5として、ネットのみ4行動、他は3行動の合計、つまり直接・間接は15が、ネットは20が最大値です。5以上の数値(平日5日毎日1回以上)を、注意喚起のために黄色で塗りつぶしています。個人を確認し、声をかけるなど配慮が必要です。
 ・認知頻度は、「週に5回以上されている人は何人ですか?」と注意すべき人数で、のべ合計人数を示しています。いじめは教師が気づきにくいので、この数値が多い個人を確認し、開けるようでしたら話を聞くなどの対応が推奨されます。

番号	いじめの被害能力	能力偏差値		支援偏差値		加害頻度			被害頻度			認知頻度		
		標準	個人	標準	個人	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット
1	52	55	49	47	0	1	0	3	2	0	3	1	0	0
2	62	50	54	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	69	59	49	41	2	0	0	1	0	0	3	0	0	0
4	59	59	59	62	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
5	44	30	43	38	0	6	6	0	0	0	3	0	0	0
6	50	47	54	50	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0
7	45	51	59	50	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8	34	51	46	53	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
9	56	51	57	50	5	0	0	6	0	1	0	0	0	0
10	47	47	41	47	8	11	9	3	0	0	2	1	1	1
11	37	59	51	56	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0
12	47	43	54	50	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0
13	50	39	54	32	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0
14	53	47	51	44	2	1	0	2	0	0	1	1	0	0
15	56	59	57	59	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0
16	59	51	54	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	40	52	59	59	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	59	55	51	35	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0
19	53	59	59	44	5	2	0	5	4	1	0	3	0	0
20	53	59	51	47	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0
21	53	55	43	47										
22	47	47	46	44										
23	56	51	51	59										
24	40	43	36	44										
25	53	47	62	59										

認知のゆがみ?

クラスで目撃者も被害者も全然いないのに、一人だけ被害・目撃が多い場合など、敏感だったり認知のゆがみがある要配慮な児童生徒が見つかる可能性も!

**アンケートに回答する気持ち!
生徒は何かを期待して回答しているはず!**





本研修のねらい

生徒の生涯にわたる
Well-Beingの達成に
向けた教育の実現に向けて

その教育理論と
教育技術の一例を学びあう

